

史跡小島陣屋跡における斜面崩落防止対策

5か年加速化対策

災害時の効果発揮事例

国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

概要：静岡県静岡市の小島陣屋跡で、急傾斜地の斜面崩落防止対策工事を実施。これにより、令和7年夏に生じた時間雨量20mmを越す豪雨においても斜面崩落の被害は生じず、文化財の価値が保護された。

対策名：97 史跡名勝天然記念物等の老朽化対策 <5か年加速化対策>【文化庁】

■ 実施主体：静岡県静岡市

■ 実施場所：静岡県静岡市

■ 事業概要：本工事は、令和4年台風15号に伴う豪雨で発生した土砂崩れの復旧・対策工事として実施された。連続繊維補強土工(植生吹付)と鉄筋挿入工の組合せのほか、排水溝の設置、部分的な張りコンクリート工等によって、斜面の崩落防止を図った。
※令和6年度からの2か年工事として実施中

■ 事業費：2.03億円

主な事業	事業費	実施期間
斜面崩落防止対策工事	約 2.0億円	R6~R7
うち5か年加速化対策 (加速化・深化分)	約 1.4億円	R6~R7

■ 災害の外力、被害と効果：

➤ 令和7年夏において、静岡市では時間雨量が20mm以上の降雨を3日間記録した。

➤ 最寄りの神社では水道管の破断と土砂の流出被害が見られたが、史跡小島陣屋跡では崩落、土砂流出を防ぐことができた。これにより、文化財の価値が保護されるとともに、斜面崩落による二次被害を防ぐことができた。

施工前



施工後



令和7年夏大雨後：植物の繁茂により斜面が安定した状態



斜面の崩落防止措置を行っていたことで、大雨後も斜面の崩落、土砂流出は生じず

➡ 文化財価値の保護、斜面崩落による二次被害防止につながった